

# 遺愛本館2階中央スペースで 『原爆の絵』展を開催しました。



6月5日（水）～11日（火）まで1週間、遺愛本館2階中央スペースで、「広島県の高校生が被爆者の体験談を傾聴しながら、半年から1年ほどかけて描き上げた作品」を展示しました。縁があってお借りすることができ、美術部顧問の川嶋紀子先生と美術部員の皆さんの協力を得ながら『原爆の絵』展として開催しました。

…広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度から被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被

爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」制作に取り組んでいます。この取り組みは、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として残すこと、そして絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。被爆体験の継承の一つの形として、一人でも多くの方に絵をご覧いただければ幸いです。…主催者からのメッセージ

なお、遺愛本館2階中央スペースは、今回の本館修復工事で、約90年ぶりに復活したスペースです。本館の中央部にあり、2階バルコニーに出入りできる場所ですが、長い間、部屋として仕切られ、生徒の皆さんが立ち入ることができませんでした。1週間の展示会でしたが、たくさんの遺愛生が訪れ、熱心に絵を鑑賞していました。

2024年6月12日

